

# 藻場造成に係る駆除生物の有効利用の促進

大隅地域振興局 林務水産課

## 【背景・目的】

高山地区は昭和 40 年代から磯焼けが継続しており、漁協青壮年部（藻場保全会）では基幹漁業である定置網の漁獲量減少に歯止めをかけることを目的に平成 18 年度から藻場造成活動を行っている。

当地区における藻場形成の主な阻害要因はウニによる食害であり、現在ウニの駆除を行っている。そこで、ウニ等駆除生物の有効利用について検討を行った。

## 【普及の内容・特徴】

ウニ駆除活動の中で、時期と場所によってはウニの身入りが改善されていることが分かったので、板ウニとして出荷することを試みた。ムラサキウニについては志布志の漁業者から、ガンガゼについては桜島の漁業者から板ウニ加工の技術指導を受けた。

また、身入りが悪いウニの有効活用法として、ウニを使った堆肥の試作や釣り餌用の出荷を行った。更に、藻場形成の制限要因の 1 つである巻貝の販売を行った。

## 【成果・活用】

### 1 板ウニの出荷

高山地区で採捕したムラサキウニを使って志布志の漁業者から板ウニの技術指導を受けたところ、当地区のウニが身入り・品質とも遜色無いという評価を受けた。その後、部員 2 名が漁協の漁業権行使の承認を受け、平成 23 年 5 月から 6 月の間にムラサキウニを使って 39 枚の板ウニを出荷した。

また、漁期が長いガンガゼについて、桜島の漁業者から板ウニ加工の研修を受けた。ガンガゼは水深が深い場所に分布するため、桜島では潜水器を使って採捕しており、現在、高山でも潜水器漁業許可の取得を検討中である。

### 2 ウニ堆肥の試作

（社）水産土木建設技術センターの講師を招き、ウニを使った堆肥作りの勉強会及び試作を行った。今後は作成した堆肥を地元の学校等で使用してもらい、藻場造成活動の啓発を行う予定である。

### 3 釣り餌用ウニの出荷

部員 1 名がガンガゼ及びナガウニを採捕し、釣り餌用に販売した。釣具店と契約を結び、その出荷量は順調に伸びている。

### 4 巻貝の販売・出荷

地元で月 1 回行われているイベントで平成 22 年からギンタカハマやサザエの販売を行っており、今年度も継続して行った。また、新たに 2 名の部員がサザエ及びアワビの漁業権行使の承認を受け、合計 3 名が素潜り漁を行っており、その漁獲量は順調に伸びている。

### 5 その他

上記の取り組みを平成 24 年 1 月 14 日に開催された「なぎさの守人シンポジウム」で発表し、全国へ情報発信した。

※藻場造成活動には、水産庁の環境・生態系保全活動支援事業を活用しているが、本報告の取り組みは事業とは別途に行ったものである。



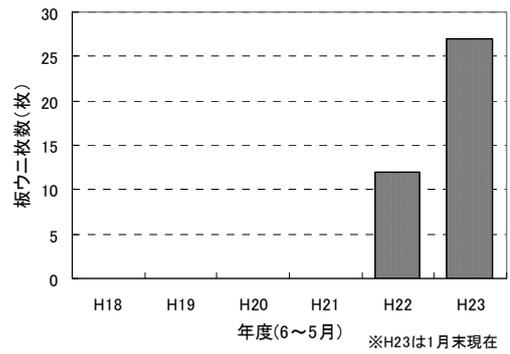
ムラサキウニ板ウニ加工研修（志布志）



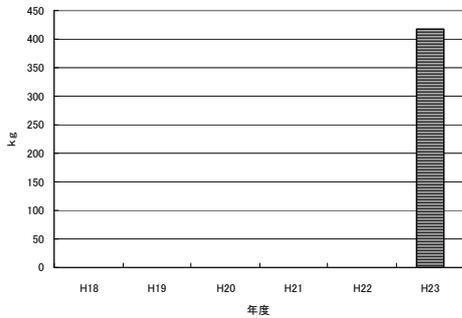
ガンガゼ板ウニ加工研修（桜島）



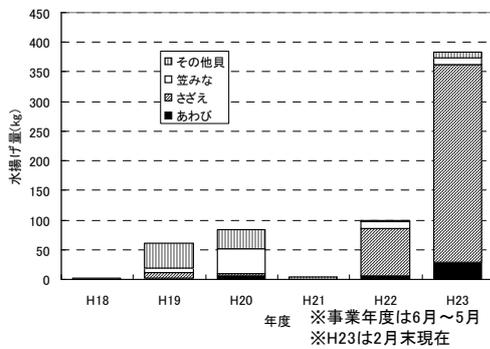
市場へ出荷した板ウニ



高山漁協における板ウニの水揚げ量



釣り餌用ウニの出荷状況



高山漁協における貝類の水揚げ量

なぎさの守人シンポ

## 高山藻場保全会に注目集まる

# 駆除ウニを生食加工

藻場・干潟など保全活動事例を発表

「生食加工」は、海藻類の旨味を最大限に引き出すための加工方法で、主に干潟や藻場の環境保全活動の一環として行われています。高山藻場保全会では、この加工技術を駆除されたウニに活用し、地域の活性化と環境保全を同時に実現しています。

高山藻場保全会（代表：高山漁協）は、藻場の環境保全と地域活性化を目的として、駆除されたウニを生食加工技術を活用しています。この加工技術は、海藻類の旨味を最大限に引き出すことができ、地域の特産品として活用されています。

高山藻場保全会は、藻場の環境保全と地域活性化を目的として、駆除されたウニを生食加工技術を活用しています。この加工技術は、海藻類の旨味を最大限に引き出すことができ、地域の特産品として活用されています。

新聞記事（H24年1月17日 みなと新聞）